



なきごえ



1993

12

OSAKA  AKASO

大阪市
天王寺動物園協会



(撮影：吉本 昌俊)

- 2 — New Face シシオザル誕生
- 3 — 動物と私 都市と民話と動物たち(唐沢孝一)
カバーウォッチング アライグマ
- 4 — 清里の環境教育(大嶽 隆)
- 6 — アジアゾウの飼育(天王寺動物園ゾウ飼育担当チーム)
- 8 — グラフZOO どうぶつえんのおじさんのお話
- 10 — ケンちゃんの好きやねん動物園(松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

アライグマ
ネコ目 アライグマ科
Procyon lotor

元来、北アメリカ、中央アメリカとその周辺の島々に分布していますが、飼育されていたものが逃げヨーロッパやロシア、日本でも野生化しています。夜行性で水辺を好み、木登りが大変上手です。(撮影：森本委利)

1993年 目次

通刊329~340号

なきごえNo.340付録
第29巻 1~12は発行月

表紙

		撮影者名
1	セキショクヤケイ	竹田 正人
2	ミナミヤイロチョウ	宮下 実
3	アジアゾウ	前田 茂
4	ホンケワタガモ	大川 光雄
5	ニッポンツキノワグマ	大野 尊信
6	マカロニペンギン	堀内 智生
7	マーラ	森本 委利
8	アカカンガルー	永田 健一
9	マレージャコウネコ	前田 茂
10	メガネグマ	長瀬 健二郎
11	ユリカモメ	榎原 安昭
12	アライグマ	森本 委利

動物と私

執筆者名

1	森岡 弘之 国立科学博物館 動物第1研究室長	7	酒井 和子 ストーリーテラー
2	中川 尚史 シオン短期大学 助教授	8	納家 仁 日本野鳥の会 大阪支部
3	山地 明子 大阪府立大学 大学院生	9	江崎 保男 姫路工業大学助教授
4	東田 和弘 開業獣医師	10	樋口 広芳 日本野鳥の会研究センター所長
5	浅葉 亮介 岩田山自然遊園地 副園長	11	長井 三郎 屋久島在住 民宿経営
6	岩倉 善樹 天王寺動植物公園事務所 副所長	12	唐沢 孝一 都市鳥研究会代表

New Face

撮影者名

1	フンボルトペンギンがやってきた 大谷 直樹	7	ジャガーの赤ちゃん誕生 竹田 正人
2	西年の新顔 ケニアカムリホロホロチョウ 野口 秀高	8	ニホンコウノトリのヒナ誕生 中川 哲男
3	オーストラリアからの動物親善大使 アカカンガルー 宮下 実	9	ニホンザルの赤ちゃん 大野 尊信
4	クロライチョウがやってきた 大谷 直樹	10	ソデグロヅル来園 前田 茂
5	サル舎に新しくお嫁さん入園 フランソワルトン 長瀬 健二郎	11	マレージャコウネコの赤ちゃん誕生 永田 健一
6	今年も誕生タンチョウのヒナ 永田 健一	12	シシオザル誕生 吉本 昌俊

グラフZOO

撮影者名

1	キジの仲間たち 大川 光雄	7	今年も赤ちゃんがいっぱい 土谷 正道
2	私は誰~れ? 長瀬 健二郎	8	あなたの好きな動物は? 前田 茂
3	中国の動物園 森本 委利	9	ネコ科の動物たち 大川 光雄
4	猛禽類-II 吉本 昌俊	10	サマースクール なきごえ編集部
5	新調理場完成 竹田 正人	11	オウサマペンギン誕生 村田 行雄 野口 秀高
6	チンパンジーってすごいなあ! 大野 尊信	12	ビンゴDEガイド 永田 健一 大野 尊信

特別寄稿

執筆者名

1 鶏と人	西田隆雄	日本大学 農獣医学部 畜産学科教授
2 北海道の野生動物たち 上	森田謙一	北海道保健環境部 自然保護課 主査
3 北海道の野生動物たち 下	森田謙一	北海道保健環境部 自然保護課 主査
4 野生動物と野外博物館	金井塚 務	宮島自然史研究会
5 コンゴのブラザビル動物園 —現状とその役割—	鈴木 滋	京都大学理学部動物学教室 大学院生
6 天王寺動物園とニホンアシカ	井上貴央	鳥取大学医学部解剖学第2講座教授
7 アフリカゾウに思う	大高成元	動物写真家
8 お寺の森での環境教育の実践	久山喜久雄	フィールドソサエティー代表
9 東京の自然と自然紹介人たち	小林 毅	(株)自然教育研究センター
10 東北の自然—森の恵みとこどもたち—	澤口たまみ	エッセイスト
11 長良川流域の哺乳類	田口五弘	岐阜県哺乳動物調査研究会
12 清里の環境教育	大嶽 隆	キープ・フォレストーズ・スクール 主任レンジャー

連載

執筆者名

キーパーズアイ		公園・花だより	
5 ラブ(レター) from カナダガン	松下 達夫	1 ⑧ 春の七草	山元 貞幸
	久田 治信	6 ⑨ 洋ラン	山元 貞幸
5 親父の貫禄	土谷 正道	11 ⑩ 秋の七草	山元 貞幸
10 ゴイサギの特技	野口 秀高	獣医室から	
10 コアラの赤ちゃん	野口 秀高	3 ⑤⑨ コアラの健康管理	長瀬 健二郎
ケンちゃんの好きやねん動物園		8 ⑥⑩ 動物たちを伝染病から守るために	森本 委利
2 ⑪ ゾウの飼育係の一日	松葉 健	動物なんでも相談室	
7 ⑫ 動物と花のフェスティバル	松葉 健	4 公園で見るハトは何ですか	竹田 正人
12 ⑬ ボイラーの火入式	松葉 健	62円切手のハトは何ですか	
		8 クマはなぜ冬眠するのですか	吉本 昌俊
		ラクダはなぜ砂漠に強いのですか	

飼育観察記事

執筆者名

1 今年キジ年	西田 俊広
2 コアラの母子関係	早川 篤
7 飼育下の動物行動調査とその解析II —ニホンザルの配偶関係を調べる—	大野 尊信 早川 篤
12 アジアゾウの飼育	柴田 総 土谷 正道 小谷 信浩 西田 俊広

紀行・記録・その他

執筆者名

3 中国の動物園を訪問して	森本 委利
4 動物と共に36年	山田 茂
5 数学オンチとコアラの糞	中川 良三郎
6 ハクチョウと白鳥伝説	中川 哲男
8 動物園ボランティアの教育活動	山本 貴洋子
9 アメリカの動物園	樽本 勲
10 サマー・スクール	谷口 進

ZOO DIARY

1~9 森本 委利 10~12 竹田 正人

||||| 動物と私 |||||

— 都市と民話と動物たち —



唐沢孝一さん
(都市鳥研究会代表)

8 月上旬、妻と二人で岩手県の花巻と遠野に出かけました。花巻では「宮沢賢治記念館」や賢治が「イギリス海岸」と名付けた北上川右岸を巡り、遠野では「とおの昔話村」や「遠野市立博物館」を訪れました。

空はどこまでも青く、ぽっかり浮いた白雲は太古の昔のままのようでした。山も川も風も、大空を飛びかうアマツバメや道行く人々も、そして光さえも、東京とは違う「何か」があるように感じました。それが何なのか、言葉ではうまくいい表わせません。

旅行から帰り、改めて柳田国男著『遠野物語』を読んでみました。旧家に住みつきその家の運命の糸をあやつる「ザシキワラシ」。忽然と村から消えてしまった少女が歳月を経て老婆となって帰宅する「サムの婆」。山中深くに入った狐師がしばしば遭遇したという不思議な山男。そして、河童や天狗、オオカミ、キツネ、サケ、カッコウなどが次々と登場する民話や伝説などが、遠野を訪れてみると実にリアルに迫ってくるのです。

「昔話や伝説などは、“作り話”にきまっている。誤った観察にもとづく迷信など、科学

シシオザル誕生 サル目 オナガザル科

10月2日に誕生しました。母親は「ノエル」といい、今回で5産目です。子は雌で母親にしっかりと抱かれ、かたときも離れません。野生では絶滅の危機に瀕しています。



の進んだ現代にあってはとても信じられない」と思うかも知れません。しかし、東京では「非科学的」に思っても、岩手の山中で私の心を捉えて離さないものがあつたのはなぜでしょうか。都市は、人が何でも思い通りにコントロールできる人工システムです。しかし、支配し君臨していると思っ

ては都市は、あたかも「蟻塚」のようなものではないでしょうか。蟻塚の中は自由に支配できても、その外側の自然を同じように支配することは出来ません。地震や火山の噴火が起こるたびに、人の能力には限界があることを知らされます。学者たちは、地震や噴火の発生するしくみは詳しく説明してくれます。しかし、その発生を事前に予知することは出来ません。いっそナマズやカラス、ヘビやノネズミなどに教えてもらう方がましかも知れません。もっとはっきり言えば、私たちは「一寸先は闇」の世界で生きているともいえるのです。

都市にあっては、人は野生動物に対して絶対的に優位になっています。ですから、本当に人と動物とが対等に語りあうのは無理があります。イヌやネコなどのペット動物のように人に従順な動物とばかりつきあっていると、私たちの感性はますます自然離れしてしまいます。人と動物が対等に語りあうためには、動物たちの暮らすフィールドを人が素手で訪れる必要があります。闇夜の山野を一人で歩き、山中で一夜を過ごしてみれば、今でも、光や風や動物たちについての民話や伝説が生まれてくるような気がするのです。

都会にはない、民話を生む「何か」が、遠野には確かにあるような気がしてなりません。
(からさわ こういち)

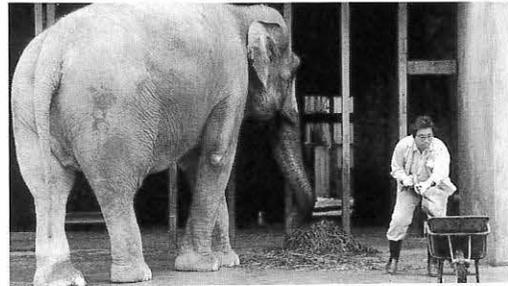
アジアゾウの飼育

天 王寺動物園では、昨年の8月に飼育担当の見直しを行い、ゾウの飼育をそれまでの3人体制から4人に変更し、それまでのチーフが退き、新しい2人がゾウの飼育担当者になりました。1年3か月を経過した現在、4人の飼育担当者がそれぞれの立場でゾウの飼育について書いてみました。

[柴田 総] 経験年数18年

天 王寺動物園では、3頭のメスのアジアゾウを飼育しています。“春子”と“百合子”は共に昭和25年に来園し、飼育年数43年を越えた当園で最も長く飼育している動物たちです。2頭が来園した頃は第2次世界大戦直後で、動物園は荒廃していましたが、彼女たちの来園を機に戦後の動物園の復興が始まりました。もう1頭の“ラニー博子”は昭和45年に大阪で開催された日本万国博覧会を記念して、インド政府から贈られたもので、こちら来園後20年以上経過しています。

ゾウは野生では木の葉、草、果実などを食べており、1日の採食量は200～300kgに達しますが、当園では干草、青草、ジャガイモ、サツマイモ、ニンジン、リンゴなど比較的栄養価の高い餌を与えていますので、1日の総量は70～100kgになっています。



動 物の飼育方法には、猛獣などのように直接動物に触れることなく飼育する間接飼育と飼育者が動物と同じ場所に入り飼育する直接飼育があります。ゾウの場合は健康状態などを把握するために直接飼育が必要とされています。しかし、ゾウは一見やさしそうに見えますが、とても賢いうえに、たいへん体が大きいので、生命にかかわる人身事故も起っており、動物園界ではたいへん危険な動物とされています。そのため、新人の飼育担当者がゾウといっしょに飼育管理作業ができるようになるまでは数年の経験を積む必要があります。飼育担当者がゾウに慣れる必要があるとい

うことはいうまでもありませんが、ゾウが飼育担当者に慣れることも必要なのです。飼育担当者を養成するためには一人一人の能力や性格に合わせて対応していかなければなりません。ゾウと人間との相性もあり、一人前のゾウの飼育担当者になるためには大変な苦勞が必要です。

私が、4名のゾウの飼育担当者のグループのチーフとしてゾウを飼育するようになって、1年3か月が過ぎました。まだまだ、未熟な私ですが、自分のことばかりでなく、後継者づくりの難しさをひしひしと感じている今日この頃です。

[小谷信浩] 飼育経験10年

私 が感じた3頭のゾウの性格を、まず述べたいと思います。

“春子”は少し頑固な性格ですが、たいへん賢く、3頭の中ではリーダー格です。“百合子”はたいへん知恵の働くゾウですが、人間に対しては攻撃的なので、私たちにとっては油断のできないゾウです。“ラニー博子”は、どちらかというところ、他の2頭とは離れて行動していることが多く、何か心の奥に秘めたものを持っているような気がします。

私 がゾウを担当となって10年になります。当然、その間ゾウも年をとってきたわけで、それぞれのゾウの関係も少しずつ変化してきています。以前から“ラニー博子”は“春子”を意識しており、時折闘争が見られましたが、昨年から闘争が頻繁に見られるようになりました。“ラニー博子”は体が大きく力も強くなり、反対に“春子”のほうは年をとって体力が落ちてきたためでしょう。

攻撃の経過はいつも次のようです。まず、“ラニー博子”の動きがスローになり、目つきが何とも言えない異様な感じになり、いつも別行動している“春子”につきまとい、隙を見ては、後ろ足でけったり、お尻で押ししたりします。エスカレートしてくると互いに鼻をからませて押し合ったり



します。結局、いつも春子の牙の一撃で終わるのですが、“春子”と“ラニー博子”の体格差があまりなくなってしまったので、世代交代までそんなに時間がかからないと思われそうですが、注意深く見守っていきたいと思っています。

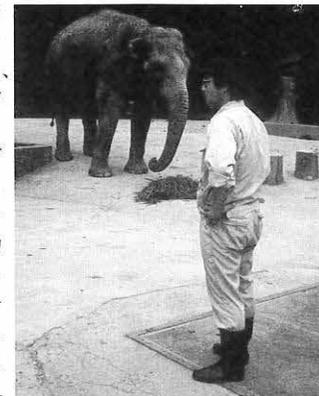
今後の課題として、第一に考えているのは“春子”、“百合子”、これからまだ大きくなる“ラニー博子”たちがケガや病気をしないように飼育管理することです。また、私たち自身もケガや事故を起こさないように注意しなければならないことは言うまでもありません。そして、良い後継者をつくることも私の大きな責務と考えています。

[土谷正道] 経験年数1年3か月

私 はゾウの飼育担当になって、まだ1年と3か月しかたっていません。ライオンやトラなどの猛獣では間接飼育をしていますので、直接動物に触れることなく飼育することができますが、ゾウの場合、夜間は足を鎖で繋ぎ止めていますので、朝夕の脱着作業時にはどうしてもゾウに直接触れなければなりません。昼間もゾウの出ている運動場に入り、清掃作業をしなければなりません。他の作業も一人前に行えるようになるためには、10年、20年と長い年月が必要です。

遠く離れて、ゾウを見ていると、体のわりに小さな目をしており、動作もゆっくりとしているようなイメージがありますが、何かに驚いた時には、それぞれ離れた場所にいた3頭が、大きな鳴き声をあげながら1か所に集まってきました。その時のスピードはものすごい速さで、“地響きをたてる”という表現がぴったりです。とっさの時や攻撃に移る時の動作はとても素早く、一瞬の油断もできません。まだまだ、私には攻撃に移る時の表情を読み取ることができません。

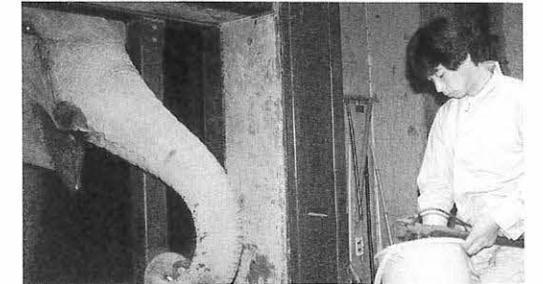
3 頭の性格はそれぞれ特徴があり、リーダー格の“春子”は温厚で群のまとめ役で、他の2頭がもめると、間に割って入って仲裁に入り、時には悪い方に制裁を加えたりします。“百合子”は年齢、大きさともに“春子”と変わりありませんが、いつも“春子”のそばに寄り添って行動しています。特に水浴びが好きで飼育係が水をかけなくても自分で鼻で水を吸込んで体にかけています。なかなか、いたずら好きで、時にお客さんに水をかけ、逃げ惑う姿をながめて楽しんでいます。最後に“ラニー博子”ですが、体は先の2頭より小さいのですが、力は強くやんちゃです。いつも、何か悪いことをするのは、このゾウで“百合子”



の足を鼻で引っかけたり、鼻で尻を押ししたりしてちょっかいを出し、“春子”に怒られています。度が過ぎると我々が大声で制止したり、中に入って手鉤や棒を使ってやめさすこともあります。この様にそれぞれ性格のちがうゾウたちですので、よく観察を行って性格を把握し、適切な処置ができるようになりたいと思っています。

[西田俊広] 経験年数1年3か月

知 ればしるほど恐怖心が強くなる動物、それが私が現在担当しているゾウです。天王寺動物園に採用され、当初はキジ類と動物病院の入院動物を担当し、3年半が経過しました。次に担当する動物が、ゾウだなんて想像もしていなかったもので、それを聞いた時は、とまどうばかりでした。鳥については、好きでしたし子供のころからある程度飼育経験がありましたので、そこそこの自信を持っていたのですが(実際はそんなものではありませんでしたが)、鳥類から草食動物、しかも陸上で最大の動物へ担当動物が変わったのですから、不安がなかったわけではありません。しかし、恐怖感あまり感じませんでした。これまでゾウが勝手に動物園で生きていたわけではなく、現に飼育担当者がいたわけですから、私にも意地があるので、「人にできることは私にもできる。やればできる。」と簡単に考えていました。



初 めてゾウの寝室に先輩の担当者に伴われ入った時、間近に見るゾウの大きいこと。自分が飼育係であることを忘れ、ただ呆然とたたずんでしまいました。私とゾウとが接する機会が増すごとに、ゾウの私に対する攻撃あるいはおどしが、だんだんエスカレートしてきました。先輩たちからも厳しい言葉が飛びはじめ、ゾウで事故を起こすことは、死を意味することがひしひしと感じられるようになりました。そんなある日、私のほんのちょっとした気のゆるみをゾウは見逃さず、一瞬の隙をついて襲いかかってきました。単に新人に対する威嚇行動であつたので、幸い大事にはあたりませんでした。しかし、気のゆるみがあったことを反省し、「やりとげるほかに、道はないのだ。」と新たな決意をしました。

ゾウの飼育担当になって、1年3か月しかたっていませんので、これから先に何が起きかわかりませんが、先輩諸氏に負けないように努力し、ゾウを愛する気持ちを忘れずに、早く一人前のゾウの飼育担当者になるため頑張りたいと思います。



「ガイドを行いますから集まって下さい」の声に早速子供たちが、集まってきました。



「やり方は簡単だよ、クイズもやさしいヨ」

ビンゴDEガイド

6 2	7 1時32分	3 /
5 3本	1 X	4 ○
2 X	8 2個	9 ネズミ

ビンゴDEガイド 解答用紙

最初に1から9までの数字をマス目の左上に随意に小さく書きます。

次に出題9問の解答を随意に書いたマス目に書きます。

動物園のおじさんが正解を言いますので、正解ならマス目をぬりつぶします。

さて、ビンゴはいくつできたかな。

ご存知のように、タテ、ヨコ、ナナメ、どれでも一直線になればビンゴです。



「マス目に番号を入れるんだって、分かった。」
「さて、1番の問題です。フラミンゴに水カキはあるのでしょうか。」

グランドZOO

「どうぶつえんのおじさんのお話」

10月の行事は恒例になりました“ビンゴDEガイド”を行いました。当日は途中から雨というあいにくの天気になりましたが、最後まで楽しんで参加していただきました。

(撮影：永田 健一)
(構成：大野 尊信)



「よく見て下さい、水カキを使って食物を浮かして食べるんだよ、動物園で与えている餌も見て下さい」



クイズにちなんで解説をすると、本当に真剣に耳をかたむけてくれます。



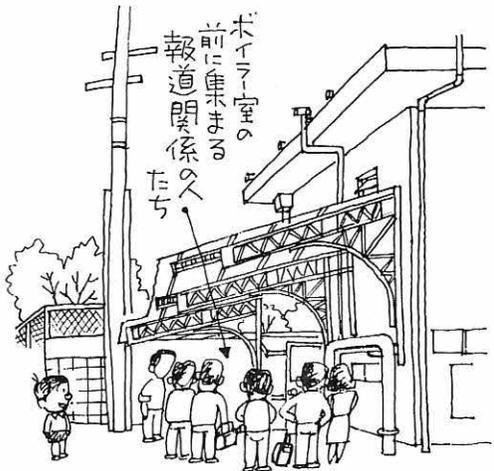
雨がふってきた。逃げ、逃げ。



第8問、ラクダのコブあわせていくつ？ ひっかかったかな、答は3頭で6つでした。

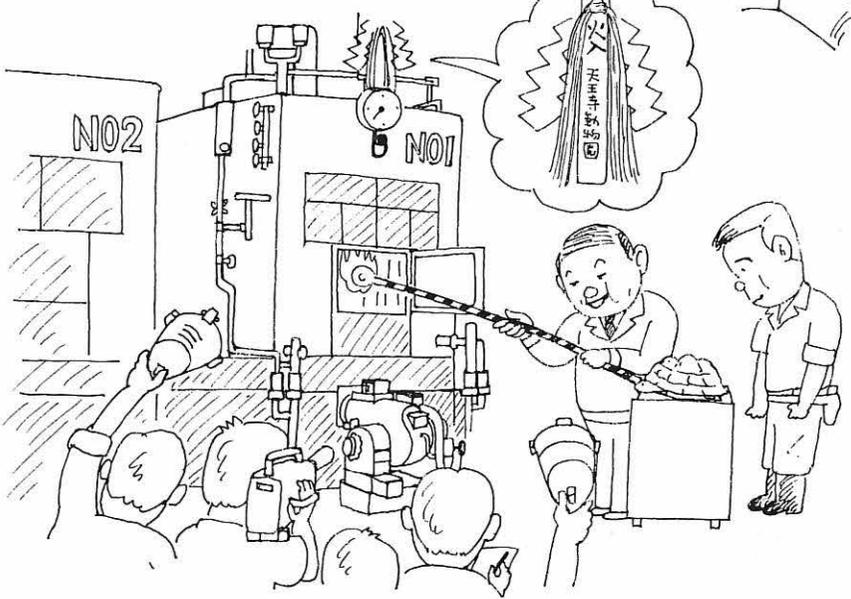
ちやんの好きやねん動物園 マンガ 松葉 健

10月1日
朝9時30分、重カ物舎の暖房用
ボイラーに火が入りました。
その火入れ式が、たくさんの
報道陣に囲まれて行われ、
ヒョウモンガメが園内の動物代
表として点火しました。



はさア
はさア
出に顔を
しなさい

カ去
メ年
だっ
さん
も



所長さんがカメの手
いをして、無事に式は
終了。動物の健康と
ボイラーの安全を願って
火入れのお札が上の
メーターのところに置か
れていました。毎年使っ
たお札が後の壁の上にた
くさん並べてあります。
ことして、この重油による
暖房は最後になるそう
で、すでに電気の暖房に
かわった舎もあります。
残っている爬虫類、カバ、
ゴリラ舎も来年から電
暖房にかわります。

ボクが5年ほど前に、この
ボイラー室を訪ねたときとな
にも変わっていませんが、室の責任
者、坂上さんがことして定
年になるということでした。
日知32年に重カ物園に勤務
した頃は石炭暖房で、日知41
年から重油になったそうです。
石炭は黒いススがたくさん、園の
お客さんや、近所からの苦
情で困ったことがあったと
か…。坂上さんは重油の
ボイラー室時代が長く、その間、
無事故だったのがうれしいとい
ふこと。現在6名が交代で24
時間勤務です。ことしも重カ物
たちに暖かい冬をお願ひします。



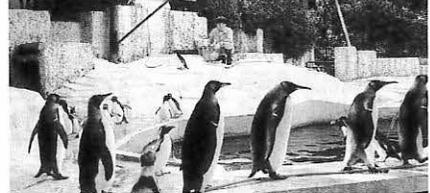
この室温は28度あり
冬の夜中に動物舎の
巡回に外へ出ると
0度以下になると
よくあるので
ひいたよ
(ハハハハ)

10月1日 恒例のボイラーの火入れ式を行いま
した。毎年電化が進み、現在スチーム暖
房をしているのは、爬虫類舎、ゴリラ舎、
カバ舎の3動物舎だけですが、これらの動
物舎も来年からは電気暖房に代る予定で



すので、今年が最後の火入れ式になりま
した。暖房の恩恵を受ける動物を代表し
て、ヒョウモンガメが点火の手伝いをし
ました。

外気温が低くなってきたので、夏の間
冷房の効いた屋内展示室で展示していた



オウサマペンギンとイワトビペンギン、
マカロニペンギン合わせて19羽を屋外展
示場に移しました。

10月3日 「春の動物と花のフェスティバル'93」
の期間中に募集した天王寺公園・天王寺
動物園写真コンクールの入賞作品を動物
園部門は動物園内の展示室で、公園部門



は植物温室で始めました。写真は動物園
の部で市長賞に選ばれた堺市の岡本清子
さんのゾウをテーマにした作品「水に遊
ぶ」です。シシオザルの「ノエル」が、
赤ちゃんを産みました。

- 10/4. 9月5日に産卵したキーウィの卵を検卵し
たところ、残念ながら無精卵でした。
- 10/6. 宮下実獣医がインドのマドラスで開催さ
れたシシオザルの国際会議に出席するた
めに出張しました。
- 10/8. オオタカを1羽保護しました。
- 10/12. 今年生まれのブラックバックが前足を骨
折したので、緊急手術を行いました。
- 10/13. オーストラリアのメルボルン市長一行が
来園されました。

10月14日 (社)日本動物園水族館協会の第6回
種保存委員会拡大会議が大阪市の主催で

今年もおもしろ情報満載

ZOO DIARY

二日間の予定で開催されました。この会
議に出席のため来阪された日動水協の総



裁の秋篠宮殿下が、天王寺動物園を約2
時間にわたって見学されました。

- 10/15. カワセミを1羽保護しました。
- 10/17. 「秋の動物と花のフェスティバル'93」が
始まりました。(11月7日まで)。園内各所
で様々なイベントを行いました。

第101回動物のお話とスライドの会で
「ピングDEガイド」を行いました。

- 10/21. 病気になったサシバとミヤマハクカンを
動物病院に入院させました。
- 10/22. 猛禽舎でアメリカチョウゲンボウ一つが
いの展示を始めました。

メガネグマが展示場から脱出しまし
たが、麻醉銃で捕獲し、約30分で寝室に収
容しました。幸い入園者にケガはありま
せんでした。

- 10/25. 10月12日に手術をしたブラックバックを
検査しました。経過は順調でした。

10月26日 大阪税関による「税関展」が展示室
で開催されました。期間は10月31日まで



- で、ワシントン条約の啓発のため、税関
に没収された違反品が展示されました。
- 10/27. 脱出したメガネグマの屋外展示場の安全
点検と補修が終わり、展示を再開しました。

- お知らせ■
- 動物園のおじさんのお話
「裏側ウォッチング」日時 12月12日(日) 午後1時～
 - しめなわ飾り 12月24日(金)～1月15日(祝)
 - テレフォンサービス 06-771-9999
 - お正月行事 カレンダープレゼント 1月2日(日)・3日(月)
もちつき 1月3日(月)
映画の会 1月2日(日)・3日(月)
 - 年末年始の休園日のお知らせ
12月29日(木)～1月1日(祝) ※1月3日(月)は開園します。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

＜くらしかいかたシリーズ＜既刊本＞
B5変型判・オールカラー・各定価680円

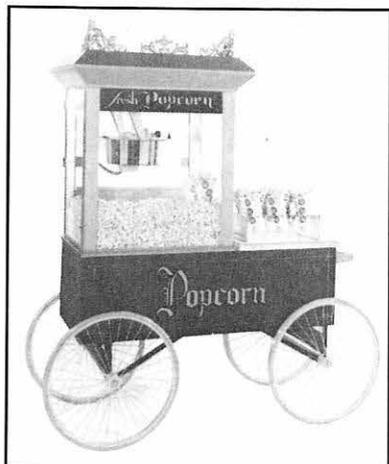
むし くらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに



フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
（ギャレ大阪） ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費／年1,500円（切手72円・呈既刊号目次）

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

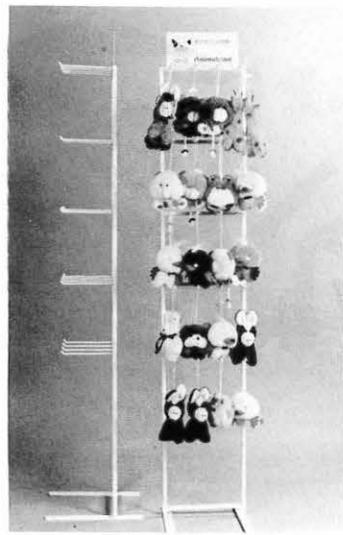
コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……



オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

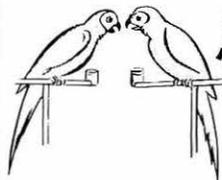


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

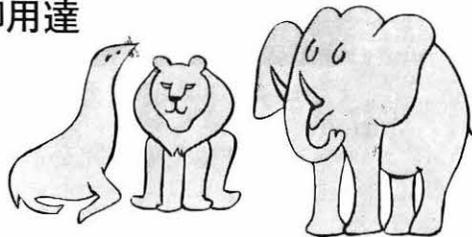
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

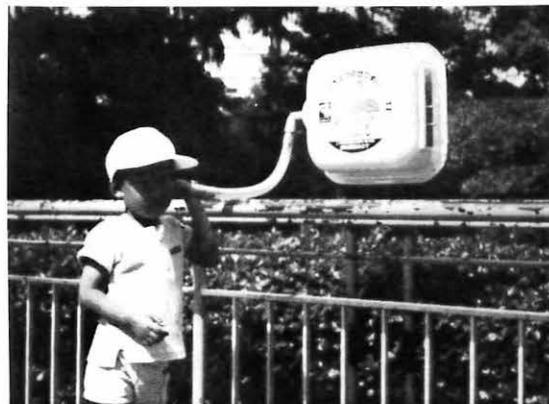


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

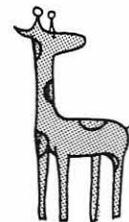
中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our Yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



いほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印
オグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1993年12月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第12号 (通巻340号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/柳原安昭)
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)